教材の利用について：このPDFは利用者本人の個人学習目的で保存・印刷して利用できます。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布、講座等での無断利用はできません。詳細：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0001
コンクリートの水セメント比について、最も適切な記述はどれか。
ア．一般に水セメント比が過大になると強度・耐久性の低下につながりやすい。
イ．水セメント比を大きくするほど必ず強度が高くなる。
ウ．水セメント比はコンクリート品質と無関係である。
エ．水セメント比は骨材の最大寸法だけを表す指標である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。一般に水セメント比が過大になると強度・耐久性の低下につながりやすい。
イ：誤り。水セメント比を大きくするほど必ず強度が高くなる。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。水セメント比はコンクリート品質と無関係である。という判断は適切でない。
エ：誤り。水セメント比は骨材の最大寸法だけを表す指標である。という扱いは適切でない。
総合解説：水量管理は施工性だけでなく強度・耐久性にも関係する。

問題 0002
現場でセメントの水和を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．セメントは乾燥空気だけで化学反応して硬化する。
イ．セメントは水と反応して水和生成物を形成し硬化する。
ウ．セメントは骨材と溶融して硬化する。
エ．セメント硬化には水が有害なので初期から完全乾燥させる。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。セメントは乾燥空気だけで化学反応して硬化する。という扱いは適切でない。
イ：正しい。セメントは水と反応して水和生成物を形成し硬化する。
ウ：誤り。セメントは骨材と溶融して硬化する。という判断は適切でない。
エ：誤り。セメント硬化には水が有害なので初期から完全乾燥させる。という扱いは適切でない。
総合解説：適切な水分保持は初期養生で重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0003
骨材の役割に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．骨材はセメントの水和反応そのものを起こす材料である。

イ．骨材は全て取り除くほど収縮が小さくなる。

ウ．骨材はコンクリートの体積の大部分を占め、安定した骨格を形成する。

エ．骨材の粒度はワーカビリティに影響しない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。骨材はセメントの水和反応そのものを起こす材料である。という扱いは適切でない。
イ：誤り。骨材は全て取り除くほど収縮が小さくなる。という判断は適切でない。
ウ：正しい。骨材はコンクリートの体積の大部分を占め、安定した骨格を形成する。
エ：誤り。骨材の粒度はワーカビリティに影響しない。という扱いは適切でない。
総合解説：骨材品質・粒度は施工性や耐久性に影響する。

問題 0004
鋼材の弾塑性を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．鋼材はどの荷重でも永久変形だけが生じる。

イ．鋼材には弾性範囲が存在しない。

ウ．鋼材の強度は温度や腐食の影響を一切受けない。

エ．鋼材は弾性範囲内では荷重を除くと概ね元の形状に戻る。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。鋼材はどの荷重でも永久変形だけが生じる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。鋼材には弾性範囲が存在しない。という判断は適切でない。
ウ：誤り。鋼材の強度は温度や腐食の影響を一切受けない。という扱いは適切でない。
エ：正しい。鋼材は弾性範囲内では荷重を除くと概ね元の形状に戻る。
総合解説：弾性範囲と降伏後の塑性挙動を区別する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0005
木材の含水率について、最も適切な記述はどれか。
ア．木材の含水状態は寸法変化や腐朽耐久性に影響する。
イ．木材は含水率が変化しても寸法が全く変わらない。
ウ．木材は水分を吸収しない。
エ．含水率は金属材料だけに用いる指標である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。木材の含水状態は寸法変化や腐朽耐久性に影響する。
イ：誤り。木材は含水率が変化しても寸法が全く変わらない。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。木材は水分を吸収しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。含水率は金属材料だけに用いる指標である。という扱いは適切でない。
総合解説：木材は使用環境に応じた含水・防腐管理が必要である。

問題 0006
現場で石材の異方性を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．全ての天然石は方向に関係なく完全に同一強度である。
イ．天然石材は種類や割れ目・層理等により強度や吸水性が異なる。
ウ．石材は吸水しないため凍害を受けない。
エ．石材の表面状態は滑り抵抗に影響しない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。全ての天然石は方向に関係なく完全に同一強度である。という扱いは適切でない。
イ：正しい。天然石材は種類や割れ目・層理等により強度や吸水性が異なる。
ウ：誤り。石材は吸水しないため凍害を受けない。という判断は適切でない。
エ：誤り。石材の表面状態は滑り抵抗に影響しない。という扱いは適切でない。
総合解説：石材選定では石種・目・仕上げ・使用環境を確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0007
アスファルト混合物に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．温度が低いほど締固めやすくなる。

イ．混合物温度は密度に影響しない。

ウ．アスファルト混合物は温度低下に伴って締固めが困難になるため施工温度管理が重要である。

エ．敷均し後は転圧を行わない方が空隙が減る。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。温度が低いほど締固めやすくなる。という扱いは適切でない。

イ：誤り。混合物温度は密度に影響しない。という判断は適切でない。

ウ：正しい。アスファルト混合物は温度低下に伴って締固めが困難になるため施工温度管理が重要である。

エ：誤り。敷均し後は転圧を行わない方が空隙が減る。という扱いは適切でない。

総合解説：舗装品質では温度・転圧・密度管理が重要である。

問題 0008
土木用シートを適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．どの製品も用途に関係なく同一機能である。

イ．土中では必ず直ちに溶解する。

ウ．施工時の破損は性能に影響しない。

エ．ジオテキスタイル等は用途に応じ分離・ろ過・排水・補強などの機能を持つ。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。どの製品も用途に関係なく同一機能である。という扱いは適切でない。

イ：誤り。土中では必ず直ちに溶解する。という判断は適切でない。

ウ：誤り。施工時の破損は性能に影響しない。という扱いは適切でない。

エ：正しい。ジオテキスタイル等は用途に応じ分離・ろ過・排水・補強などの機能を持つ。

総合解説：製品の要求機能と施工時の損傷防止を対応させる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0009
モルタルについて、最も適切な記述はどれか。

ア．モルタルは一般にセメント・細骨材・水を主材料とし、目地や仕上げ等に用いられる。

イ．モルタルには必ず粗骨材を主材として大量に用いる。

ウ．モルタルは結合材を含まない。

エ．モルタルは硬化しない材料である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。モルタルは一般にセメント・細骨材・水を主材料とし、目地や仕上げ等に用いられる。

イ：誤り。モルタルには必ず粗骨材を主材として大量に用いる。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。モルタルは結合材を含まない。という判断は適切でない。

エ：誤り。モルタルは硬化しない材料である。という扱いは適切でない。

総合解説：材料構成と用途をコンクリートと区別する。

問題 0010
現場で材料のロット管理を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．材料は納入された時点で無条件に合格とする。

イ．材料受入れでは品質証明・規格・数量・外観等をロット単位で確認することが重要である。

ウ．品質証明書は現物との照合が不要である。

エ．不適合材は適合材と混在保管する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。材料は納入された時点で無条件に合格とする。という扱いは適切でない。

イ：正しい。材料受入れでは品質証明・規格・数量・外観等をロット単位で確認することが重要である。

ウ：誤り。品質証明書は現物との照合が不要である。という判断は適切でない。

エ：誤り。不適合材は適合材と混在保管する。という扱いは適切でない。

総合解説：受入検査と識別管理は不適合使用防止の基本である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0011
凍結融解抵抗に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．凍結融解は水分状態と無関係である。

イ．多孔質材料ほど必ず凍害に強い。

ウ．吸水しやすい材料は凍結融解作用を受ける環境で劣化リスクを考慮する。

エ．凍結地域でも材料選定は不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。凍結融解は水分状態と無関係である。という扱いは適切でない。
イ：誤り。多孔質材料ほど必ず凍害に強い。という判断は適切でない。
ウ：正しい。吸水しやすい材料は凍結融解作用を受ける環境で劣化リスクを考慮する。
エ：誤り。凍結地域でも材料選定は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：使用環境に応じた耐久性評価が必要である。

問題 0012
材料保管を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．吸湿して固結したセメントも無条件に使用する。

イ．材料保管場所は排水状態を考慮しない。

ウ．種類・ロット表示は不要である。

エ．セメント等の吸湿を嫌う材料は雨水・湿気を避けて保管する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。吸湿して固結したセメントも無条件に使用する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。材料保管場所は排水状態を考慮しない。という判断は適切でない。
ウ：誤り。種類・ロット表示は不要である。という扱いは適切でない。
エ：正しい。セメント等の吸湿を嫌う材料は雨水・湿気を避けて保管する。
総合解説：保管中の品質劣化と誤使用を防止する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0013
応力の基本について、最も適切な記述はどれか。

ア．応力は一般に部材内部に生じる力を断面積で除した量として扱う。

イ．応力は部材長さだけで決まる。

ウ．断面積が小さいほど同じ軸力で応力は小さくなる。

エ．応力とひずみは常に同じ単位である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。応力は一般に部材内部に生じる力を断面積で除した量として扱う。
イ：誤り。応力は部材長さだけで決まる。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。断面積が小さいほど同じ軸力で応力は小さくなる。という判断は適切でない。
エ：誤り。応力とひずみは常に同じ単位である。という扱いは適切でない。
総合解説：荷重・断面・応力の関係を理解する。

問題 0014
現場でひずみを確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．ひずみは必ず力の単位で表す。

イ．ひずみは変形量を元の長さで除した無次元量として表す。

ウ．元の長さに関係なく変形量だけをひずみと呼ぶ。

エ．ひずみは変形と無関係である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。ひずみは必ず力の単位で表す。という扱いは適切でない。
イ：正しい。ひずみは変形量を元の長さで除した無次元量として表す。
ウ：誤り。元の長さに関係なく変形量だけをひずみと呼ぶ。という判断は適切でない。
エ：誤り。ひずみは変形と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：変形量と部材寸法を対応させる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0015
圧縮と引張に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．押す力を引張と呼ぶ。

イ．引く力をせん断だけと呼ぶ。

ウ．軸方向に押す力は圧縮、引く力は引張として区別する。

エ．圧縮と引張は材料に同じ影響しか与えない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。押す力を引張と呼ぶ。という扱いは適切でない。

イ：誤り。引く力をせん断だけと呼ぶ。という判断は適切でない。

ウ：正しい。軸方向に押す力は圧縮、引く力は引張として区別する。

エ：誤り。圧縮と引張は材料に同じ影響しか与えない。という扱いは適切でない。

総合解説：荷重の作用方向に応じた応力状態を判断する。

問題 0016
曲げを適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．横荷重では軸力だけが生じる。

イ．梁の支点条件は曲げに影響しない。

ウ．曲げモーメントは荷重位置と無関係である。

エ．梁に横荷重が作用すると一般に曲げモーメントとせん断力が生じる。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。横荷重では軸力だけが生じる。という扱いは適切でない。

イ：誤り。梁の支点条件は曲げに影響しない。という判断は適切でない。

ウ：誤り。曲げモーメントは荷重位置と無関係である。という扱いは適切でない。

エ：正しい。梁に横荷重が作用すると一般に曲げモーメントとせん断力が生じる。

総合解説：梁の荷重・支点・断面力を関連付ける。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0017
せん断について、最も適切な記述はどれか。
ア．せん断力は部材断面をずらそうとする作用として考える。
イ．せん断は部材を引き伸ばす作用だけを指す。
ウ．せん断力は接合部に影響しない。
エ．せん断力は横荷重があっても生じない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。せん断力は部材断面をずらそうとする作用として考える。
イ：誤り。せん断は部材を引き伸ばす作用だけを指す。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。せん断力は接合部に影響しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。せん断力は横荷重があっても生じない。という扱いは適切でない。
総合解説：せん断破壊や接合部の検討に関係する。

問題 0018
現場で支点反力を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．支点反力は荷重と無関係に常に同じ。
イ．静定構造では力・モーメントのつり合いから支点反力を求める。
ウ．つり合い条件を使わず任意に決める。
エ．反力は構造物外へ作用しない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。支点反力は荷重と無関係に常に同じ。という扱いは適切でない。
イ：正しい。静定構造では力・モーメントのつり合いから支点反力を求める。
ウ：誤り。つり合い条件を使わず任意に決める。という判断は適切でない。
エ：誤り。反力は構造物外へ作用しない。という扱いは適切でない。
総合解説：つり合い条件は力学の基本である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0019
断面積と応力に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．断面積を大きくすると必ず応力も大きくなる。

イ．断面積は応力に影響しない。

ウ．同じ軸力なら断面積を大きくすると平均応力は小さくなる。

エ．断面積をゼロに近づけても応力は一定である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。断面積を大きくすると必ず応力も大きくなる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。断面積は応力に影響しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。同じ軸力なら断面積を大きくすると平均応力は小さくなる。
エ：誤り。断面積をゼロに近づけても応力は一定である。という扱いは適切でない。
総合解説：必要断面の判断に応力概念を用いる。

問題 0020
たわみを適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．たわみは荷重に影響されない。

イ．支間が変わってもたわみは必ず同一である。

ウ．材料の弾性係数はたわみに無関係である。

エ．梁のたわみは荷重、支間、材料剛性、断面剛性などの影響を受ける。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。たわみは荷重に影響されない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。支間が変わってもたわみは必ず同一である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。材料の弾性係数はたわみに無関係である。という扱いは適切でない。
エ：正しい。梁のたわみは荷重、支間、材料剛性、断面剛性などの影響を受ける。
総合解説：強度だけでなく使用性として変形も管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0021
安全率について、最も適切な記述はどれか。

ア．安全率は作用に対する余裕を確保する考え方で、対象規準に応じて設定される。

イ．安全率は常に1未満に設定する。

ウ．安全率を大きくすれば他の検討は全て不要になる。

エ．安全率は材料強度と無関係である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。安全率は作用に対する余裕を確保する考え方で、対象規準に応じて設定される。
イ：誤り。安全率は常に1未満に設定する。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。安全率を大きくすれば他の検討は全て不要になる。という判断は適切でない。
エ：誤り。安全率は材料強度と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：設計・施工では所定の安全性評価に従う。

問題 0022
現場で荷重の組合せを確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．常に自重だけ考えればよい。

イ．構造物には自重、積載、風、地震等の作用を条件に応じて考慮する。

ウ．風荷重は屋外構造物に影響しない。

エ．地震時の作用は日本の構造物では考慮しない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。常に自重だけ考えればよい。という扱いは適切でない。
イ：正しい。構造物には自重、積載、風、地震等の作用を条件に応じて考慮する。
ウ：誤り。風荷重は屋外構造物に影響しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。地震時の作用は日本の構造物では考慮しない。という扱いは適切でない。
総合解説：使用・施工・自然外力の条件を整理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0023
鋼材腐食について、最も適切な記述はどれか。

ア．鋼材は屋外でも腐食しない。

イ．塗膜損傷は腐食に影響しない。

ウ．鋼材の腐食は水分・酸素・塩分等の環境条件で促進される。

エ．塩分は腐食抑制だけに働く。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。鋼材は屋外でも腐食しない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。塗膜損傷は腐食に影響しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。鋼材の腐食は水分・酸素・塩分等の環境条件で促進される。
エ：誤り。塩分は腐食抑制だけに働く。という扱いは適切でない。
総合解説：防食塗装や水掛かり低減など環境対策が重要である。

問題 0024
現場でコンクリート中性化を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．中性化は鉄筋を必ず防食する。

イ．中性化深さは経時変化しない。

ウ．かぶり厚さは鉄筋腐食と無関係である。

エ．中性化が進むと鉄筋周辺の高アルカリ性が失われ、鉄筋腐食リスクが高まる。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。中性化は鉄筋を必ず防食する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。中性化深さは経時変化しない。という判断は適切でない。
ウ：誤り。かぶり厚さは鉄筋腐食と無関係である。という扱いは適切でない。
エ：正しい。中性化が進むと鉄筋周辺の高アルカリ性が失われ、鉄筋腐食リスクが高まる。
総合解説：中性化と鉄筋腐食の関係を理解する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0025
塩害に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．塩化物イオンが鉄筋位置まで到達すると鉄筋腐食を促進することがある。

イ．塩化物は鉄筋腐食に無関係である。

ウ．海岸環境ほど塩害リスクは必ずゼロになる。

エ．かぶりは塩化物侵入抵抗と無関係である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。塩化物イオンが鉄筋位置まで到達すると鉄筋腐食を促進することがある。
イ：誤り。塩化物は鉄筋腐食に無関係である。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。海岸環境ほど塩害リスクは必ずゼロになる。という判断は適切でない。
エ：誤り。かぶりは塩化物侵入抵抗と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：塩害環境では材料・かぶり・表面保護等を検討する。

問題 0026
ひび割れを適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．ひび割れは全て構造安全性に無関係で記録不要である。

イ．ひび割れは水分・劣化因子の侵入経路となる場合があるため幅・原因・進行性を確認する。

ウ．ひび割れがあれば原因調査は不要である。

エ．補修材を塗るだけで原因に関係なく必ず解決する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。ひび割れは全て構造安全性に無関係で記録不要である。という扱いは適切でない。
イ：正しい。ひび割れは水分・劣化因子の侵入経路となる場合があるため幅・原因・進行性を確認する。
ウ：誤り。ひび割れがあれば原因調査は不要である。という判断は適切でない。
エ：誤り。補修材を塗るだけで原因に関係なく必ず解決する。という扱いは適切でない。
総合解説：劣化は症状だけでなく原因を評価する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0027
木材腐朽について、最も適切な記述はどれか。

ア．木材は常時湿潤させるほど腐朽しにくい。

イ．通風は木材耐久性と無関係である。

ウ．木材腐朽を抑えるには水分滞留を避け、必要に応じ防腐処理や通風を確保する。

エ．腐朽部材は外観確認せず継続使用する。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。木材は常時湿潤させるほど腐朽しにくい。という扱いは適切でない。
イ：誤り。通風は木材耐久性と無関係である。という判断は適切でない。
ウ：正しい。木材腐朽を抑えるには水分滞留を避け、必要に応じ防腐処理や通風を確保する。
エ：誤り。腐朽部材は外観確認せず継続使用する。という扱いは適切でない。
総合解説：水分管理は木材耐久性の基本である。

問題 0028
現場で紫外線劣化を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．紫外線は屋外材料に一切影響しない。

イ．塗膜の退色・チョーキングは劣化兆候にならない。

ウ．屋内用材料を無条件で屋外へ使う。

エ．樹脂・塗膜等は紫外線や温度変化で劣化する場合があり、屋外用途では耐候性を考慮する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。紫外線は屋外材料に一切影響しない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。塗膜の退色・チョーキングは劣化兆候にならない。という判断は適切でない。
ウ：誤り。屋内用材料を無条件で屋外へ使う。という扱いは適切でない。
エ：正しい。樹脂・塗膜等は紫外線や温度変化で劣化する場合があり、屋外用途では耐候性を考慮する。
総合解説：材料の暴露環境に合った耐候性を確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0029
施工前確認のチェック項目『凍害』について検討している。凍害に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．コンクリート等の凍害は内部水分の凍結融解作用と関係する。

イ．乾燥状態より水分飽和度が高いほど常に凍害リスクが低い。

ウ．凍結温度は材料劣化に関係しない。

エ．凍害は熱帯地域だけで生じる。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。コンクリート等の凍害は内部水分の凍結融解作用と関係する。

イ：誤り。乾燥状態より水分飽和度が高いほど常に凍害リスクが低い。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。凍結温度は材料劣化に関係しない。という判断は適切でない。

エ：誤り。凍害は熱帯地域だけで生じる。という扱いは適切でない。

総合解説：凍結環境では水分と材料性能を考慮する。

問題 0030
維持管理点検を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．完成時に合格なら以後の点検は不要である。

イ．耐久性確保には初期品質だけでなく、供用中の定期点検と早期補修が重要である。

ウ．小さな劣化兆候は必ず放置する。

エ．記録を残さず担当者の記憶だけで管理する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。完成時に合格なら以後の点検は不要である。という扱いは適切でない。

イ：正しい。耐久性確保には初期品質だけでなく、供用中の定期点検と早期補修が重要である。

ウ：誤り。小さな劣化兆候は必ず放置する。という判断は適切でない。

エ：誤り。記録を残さず担当者の記憶だけで管理する。という扱いは適切でない。

総合解説：点検記録の蓄積は劣化傾向の把握に役立つ。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0031
基準点について、最も適切な記述はどれか。

ア．基準点は施工中に自由に移設して記録不要である。

イ．基準点は水平位置だけで標高には使えない。

ウ．基準点は位置や標高の基準となり、施工測量の骨格として用いる。

エ．基準点の保全は不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。基準点は施工中に自由に移設して記録不要である。という扱いは適切でない。
イ：誤り。基準点は水平位置だけで標高には使えない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。基準点は位置や標高の基準となり、施工測量の骨格として用いる。
エ：誤り。基準点の保全は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：基準点の確認・保全・復元性が重要である。

問題 0032
現場で水準測量を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．水準測量は角度だけで標高を求める。

イ．後視と前視の読取りは不要である。

ウ．標尺は水平に寝かせて用いる。

エ．水準測量では既知標高点から高低差を測定して標高を求める。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。水準測量は角度だけで標高を求める。という扱いは適切でない。
イ：誤り。後視と前視の読取りは不要である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。標尺は水平に寝かせて用いる。という扱いは適切でない。
エ：正しい。水準測量では既知標高点から高低差を測定して標高を求める。
総合解説：視準・標尺保持・閉合確認が精度に影響する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0033
トータルステーションに関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。
ア．トータルステーションは角度と距離を電子的に測定し座標計算等に利用できる。
イ．距離を測定できない機器である。
ウ．標高差は一切扱えない。
エ．観測データの記録はできない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。トータルステーションは角度と距離を電子的に測定し座標計算等に利用できる。
イ：誤り。距離を測定できない機器である。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。標高差は一切扱えない。という判断は適切でない。
エ：誤り。観測データの記録はできない。という扱いは適切でない。
総合解説：TSは施工位置出しや出来形測定に広く用いられる。

問題 0034
GNSS測量を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。
ア．地下深部でも衛星が見えなくても常に最高精度となる。
イ．GNSSは衛星信号を利用して位置を求めるが、上空視界や電波環境の影響を受ける。
ウ．多重反射の影響を受けない。
エ．基準座標系の確認は不要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。地下深部でも衛星が見えなくても常に最高精度となる。という扱いは適切でない。
イ：正しい。GNSSは衛星信号を利用して位置を求めるが、上空視界や電波環境の影響を受ける。
ウ：誤り。多重反射の影響を受けない。という判断は適切でない。
エ：誤り。基準座標系の確認は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：GNSSでは衛星配置・遮蔽・座標系を確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0035
閉合差について、最も適切な記述はどれか。
ア．閉合差は大きいほど精度が高い。
イ．閉合確認は観測ミスの検出に役立たない。
ウ．測量では既知点へ閉じる観測等で閉合差を確認し、精度を評価する。
エ．許容値を超えても無条件で採用する。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。閉合差は大きいほど精度が高い。という扱いは適切でない。
イ：誤り。閉合確認は観測ミスの検出に役立たない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。測量では既知点へ閉じる観測等で閉合差を確認し、精度を評価する。
エ：誤り。許容値を超えても無条件で採用する。という扱いは適切でない。
総合解説：閉合差は観測品質を判定する基本指標である。

問題 0036
現場で器械据付を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．整準がずれていても観測値に影響しない。
イ．求心は器械点と無関係である。
ウ．三脚は不安定なほど良い。
エ．測量機器は所定の点に正確に整準・求心して据え付ける。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。整準がずれていても観測値に影響しない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。求心は器械点と無関係である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。三脚は不安定なほど良い。という扱いは適切でない。
エ：正しい。測量機器は所定の点に正確に整準・求心して据え付ける。
総合解説：据付誤差を抑えることが観測精度の基本である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0037
視準距離に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．水準測量では後視・前視の視準距離をできるだけ均衡させると器械誤差の影響を低減しやすい。

イ．視準距離差を大きくするほど誤差が必ず消える。

ウ．視準距離は精度と無関係である。

エ．標尺を斜めにするほど良い。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。水準測量では後視・前視の視準距離をできるだけ均衡させると器械誤差の影響を低減しやすい。
イ：誤り。視準距離差を大きくするほど誤差が必ず消える。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。視準距離は精度と無関係である。という判断は適切でない。
エ：誤り。標尺を斜めにするほど良い。という扱いは適切でない。
総合解説：観測幾何を整えることで系統誤差を抑える。

問題 0038
測量成果の記録を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．結果座標だけ残し元観測は必ず破棄する。

イ．観測値、器械点、気象・現場条件、計算過程等を追跡できるよう記録する。

ウ．観測日時は不要である。

エ．再測できないよう基準点情報を隠す。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。結果座標だけ残し元観測は必ず破棄する。という扱いは適切でない。
イ：正しい。観測値、器械点、気象・現場条件、計算過程等を追跡できるよう記録する。
ウ：誤り。観測日時は不要である。という判断は適切でない。
エ：誤り。再測できないよう基準点情報を隠す。という扱いは適切でない。
総合解説：トレーサビリティを確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0039
公共測量の作業規程について、最も適切な記述はどれか。
ア．公共測量では作業規程は不要である。
イ．測量法の規定は公共測量に関係しない。
ウ．公共測量では計画機関の作業規程等に従い所定の精度・手続を確保する。
エ．精度基準は現場ごとに無制限に自由設定する。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。公共測量では作業規程は不要である。という扱いは適切でない。
イ：誤り。測量法の規定は公共測量に関係しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。公共測量では計画機関の作業規程等に従い所定の精度・手続を確保する。
エ：誤り。精度基準は現場ごとに無制限に自由設定する。という扱いは適切でない。
総合解説：公共測量は統一的な品質確保の枠組みに従う。

問題 0040
現場で高さの基準を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．異なる標高基準を混在させても問題ない。
イ．標高改定は施工測量に一切影響しない。
ウ．水準点の成果値確認は不要である。
エ．標高を扱う施工では使用する水準点・標高成果の基準を確認してから測量する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。異なる標高基準を混在させても問題ない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。標高改定は施工測量に一切影響しない。という判断は適切でない。
ウ：誤り。水準点の成果値確認は不要である。という扱いは適切でない。
エ：正しい。標高を扱う施工では使用する水準点・標高成果の基準を確認してから測量する。
総合解説：基準成果の更新や座標・標高基準の統一が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0041
距離測定の補正に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．高精度測距では機器仕様や気象条件等に応じた補正の要否を確認する。

イ．温度・気圧はどの測距方式にも絶対に影響しない。

ウ．機器定数は確認不要である。

エ．精度要求が高いほど補正確認を省略する。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。高精度測距では機器仕様や気象条件等に応じた補正の要否を確認する。
イ：誤り。温度・気圧はどの測距方式にも絶対に影響しない。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。機器定数は確認不要である。という判断は適切でない。
エ：誤り。精度要求が高いほど補正確認を省略する。という扱いは適切でない。
総合解説：必要精度に応じた機器管理・補正を行う。

問題 0042
測量機器検定を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．落下後の機器でも点検せず使用する。

イ．要求精度に応じ、適切に点検・校正・検定された測量機器を使用する。

ウ．機器の精度確認は施工測量と無関係である。

エ．検定履歴は管理不要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。落下後の機器でも点検せず使用する。という扱いは適切でない。
イ：正しい。要求精度に応じ、適切に点検・校正・検定された測量機器を使用する。
ウ：誤り。機器の精度確認は施工測量と無関係である。という判断は適切でない。
エ：誤り。検定履歴は管理不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：機器状態は測量成果の信頼性に直結する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0043
丁張・位置出しについて、最も適切な記述はどれか。

ア．丁張は設計図と無関係に設置する。

イ．工事途中で基準を変更して記録しない。

ウ．施工位置出しでは設計座標・基準点から位置と高さを明示し、施工中に移動・破損しないよう管理する。

エ．位置出し後の確認測量は不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。丁張は設計図と無関係に設置する。という扱いは適切でない。

イ：誤り。工事途中で基準を変更して記録しない。という判断は適切でない。

ウ：正しい。施工位置出しでは設計座標・基準点から位置と高さを明示し、施工中に移動・破損しないよう管理する。

エ：誤り。位置出し後の確認測量は不要である。という扱いは適切でない。

総合解説：施工基準の見える化と保全が重要である。

問題 0044
施工前確認のチェック項目『測量誤差』について検討している。現場で測量誤差を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．全ての誤差は同じ原因で生じる。

イ．反復観測は誤差評価に役立たない。

ウ．系統誤差は観測回数を増やせば必ず自動消滅する。

エ．偶然誤差と系統誤差の性質を理解し、反復観測・機器点検・観測方法で低減する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。全ての誤差は同じ原因で生じる。という扱いは適切でない。

イ：誤り。反復観測は誤差評価に役立たない。という判断は適切でない。

ウ：誤り。系統誤差は観測回数を増やせば必ず自動消滅する。という扱いは適切でない。

エ：正しい。偶然誤差と系統誤差の性質を理解し、反復観測・機器点検・観測方法で低減する。

総合解説：誤差の種類に応じた対策が必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0045
図面優先確認について、最も適切な記述はどれか。
ア．施工前に設計図、仕様書、数量表等の整合を確認し、不明点は発注者へ照会する。
イ．図面間の矛盾は現場判断だけで勝手に変更する。
ウ．仕様書は図面と無関係なので読まない。
エ．不明点は完成後まで放置する。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。施工前に設計図、仕様書、数量表等の整合を確認し、不明点は発注者へ照会する。
イ：誤り。図面間の矛盾は現場判断だけで勝手に変更する。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。仕様書は図面と無関係なので読まない。という判断は適切でない。
エ：誤り。不明点は完成後まで放置する。という扱いは適切でない。
総合解説：設計図書の整合確認は施工計画の出発点である。

問題 0046
現場で縮尺を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．印刷倍率が変わっても定規で測れば必ず正確である。
イ．図面上の寸法は縮尺だけに頼らず、記載寸法値を優先して確認する。
ウ．記載寸法は無視して図上実測だけで施工する。
エ．縮尺の記載は不要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。印刷倍率が変わっても定規で測れば必ず正確である。という扱いは適切でない。
イ：正しい。図面上の寸法は縮尺だけに頼らず、記載寸法値を優先して確認する。
ウ：誤り。記載寸法は無視して図上実測だけで施工する。という判断は適切でない。
エ：誤り。縮尺の記載は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：PDFやコピーでは出力倍率が変わるため寸法記載を確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0047
平面図と断面図に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．平面図だけで全ての高さを確定できる。

イ．断面図は水平位置にしか使わない。

ウ．平面図は水平位置関係、断面図は高さ・勾配・構造断面の確認に有効である。

エ．各図面の相互照合は不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。平面図だけで全ての高さを確定できる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。断面図は水平位置にしか使わない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。平面図は水平位置関係、断面図は高さ・勾配・構造断面の確認に有効である。
エ：誤り。各図面の相互照合は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：複数図面を組み合わせて三次元的に把握する。

問題 0048
詳細図を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．詳細図は施工に使用しない。

イ．標準図があれば現場条件は無視する。

ウ．納まり確認は施工後に行う。

エ．標準図・詳細図は一般図では表せない接合部や寸法・納まりを確認するために用いる。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。詳細図は施工に使用しない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。標準図があれば現場条件は無視する。という判断は適切でない。
ウ：誤り。納まり確認は施工後に行う。という扱いは適切でない。
エ：正しい。標準図・詳細図は一般図では表せない接合部や寸法・納まりを確認するために用いる。
総合解説：詳細部の干渉・施工性を事前に確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0049
仕様書の役割について、最も適切な記述はどれか。
ア．仕様書には材料品質、施工方法、検査、管理基準等の要求事項が示される。
イ．仕様書は工事費だけを記載する文書である。
ウ．品質基準は施工者が自由に変更できる。
エ．仕様書は契約図書と無関係である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。仕様書には材料品質、施工方法、検査、管理基準等の要求事項が示される。
イ：誤り。仕様書は工事費だけを記載する文書である。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。品質基準は施工者が自由に変更できる。という判断は適切でない。
エ：誤り。仕様書は契約図書と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：図面だけでなく仕様書要求も遵守する。

問題 0050
現場で図面改訂管理を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．新旧図面を混在させる。
イ．設計変更時は最新版図面の版番号・承認状況を管理し、旧版の誤使用を防ぐ。
ウ．改訂日を記録しない。
エ．現場へ旧版だけ配布する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。新旧図面を混在させる。という扱いは適切でない。
イ：正しい。設計変更時は最新版図面の版番号・承認状況を管理し、旧版の誤使用を防ぐ。
ウ：誤り。改訂日を記録しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。現場へ旧版だけ配布する。という扱いは適切でない。
総合解説：図面版管理は施工ミス防止に直結する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0051
寸法の単位に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．mmとmを区別しない。

イ．単位記載がなくても任意に決める。

ウ．図面の寸法・標高・勾配は使用単位を確認し、換算ミスを防ぐ。

エ．勾配の%と比率は常に同じ数値として扱う。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。mmとmを区別しない。という扱いは適切でない。

イ：誤り。単位記載がなくても任意に決める。という判断は適切でない。

ウ：正しい。図面の寸法・標高・勾配は使用単位を確認し、換算ミスを防ぐ。

エ：誤り。勾配の%と比率は常に同じ数値として扱う。という扱いは適切でない。

総合解説：単位と基準を明確にして施工する。

問題 0052
施工前確認のチェック項目『施工図』について検討している。施工図を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．施工図は設計変更を無断で行う文書である。

イ．施工図は現場で使用しない。

ウ．施工図と設計図書の整合確認は不要である。

エ．施工図は設計意図を踏まえ現場の施工手順・納まり・干渉等を具体化するために作成する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。施工図は設計変更を無断で行う文書である。という扱いは適切でない。

イ：誤り。施工図は現場で使用しない。という判断は適切でない。

ウ：誤り。施工図と設計図書の整合確認は不要である。という扱いは適切でない。

エ：正しい。施工図は設計意図を踏まえ現場の施工手順・納まり・干渉等を具体化するために作成する。

総合解説：施工図は設計図書との整合を前提とする。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0053
図面の座標について、最も適切な記述はどれか。

ア．座標による位置管理では座標系・原点・測地系を統一して扱う。

イ．異なる座標系を無変換で混在させる。

ウ．座標の桁や符号は確認不要である。

エ．座標値と現地基準点は無関係である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。座標による位置管理では座標系・原点・測地系を統一して扱う。

イ：誤り。異なる座標系を無変換で混在させる。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。座標の桁や符号は確認不要である。という判断は適切でない。

エ：誤り。座標値と現地基準点は無関係である。という扱いは適切でない。

総合解説：座標基準の統一は位置ずれ防止に重要である。

問題 0054
現場で変更指示を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．口頭指示は記録せず記憶だけで施工する。

イ．口頭指示で図面変更が生じた場合は、正式な指示・承認記録に反映して施工条件を明確にする。

ウ．変更内容は関係者へ共有しない。

エ．変更後も旧図面で検査する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。口頭指示は記録せず記憶だけで施工する。という扱いは適切でない。

イ：正しい。口頭指示で図面変更が生じた場合は、正式な指示・承認記録に反映して施工条件を明確にする。

ウ：誤り。変更内容は関係者へ共有しない。という判断は適切でない。

エ：誤り。変更後も旧図面で検査する。という扱いは適切でない。

総合解説：変更履歴の文書化と共有が必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0055
数量算出について、最も適切な記述はどれか。

ア．数量は目測だけで決める。

イ．単位を混在させて合計する。

ウ．数量は設計図書・数量算出要領に基づき、対象範囲と算出単位を明確にして計算する。

エ．控除条件は確認しない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。数量は目測だけで決める。という扱いは適切でない。

イ：誤り。単位を混在させて合計する。という判断は適切でない。

ウ：正しい。数量は設計図書・数量算出要領に基づき、対象範囲と算出単位を明確にして計算する。

エ：誤り。控除条件は確認しない。という扱いは適切でない。

総合解説：算出根拠を追跡できるようにする。

問題 0056
現場で出来形測定を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．測定値だけ残し設計値を記録しない。

イ．規格値を施工後に任意変更する。

ウ．測定位置は毎回不明にする。

エ．出来形は設計値・規格値と比較できる位置・項目を測定する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。測定値だけ残し設計値を記録しない。という扱いは適切でない。

イ：誤り。規格値を施工後に任意変更する。という判断は適切でない。

ウ：誤り。測定位置は毎回不明にする。という扱いは適切でない。

エ：正しい。出来形は設計値・規格値と比較できる位置・項目を測定する。

総合解説：出来形管理は設計要求への適合確認である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0057
測定頻度に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．出来形測定の頻度・測定箇所は施工管理基準等に従って設定する。

イ．完成写真があれば測定は全て不要である。

ウ．測定頻度は品質と無関係である。

エ．不適合があっても追加確認しない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。出来形測定の頻度・測定箇所は施工管理基準等に従って設定する。
イ：誤り。完成写真があれば測定は全て不要である。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。測定頻度は品質と無関係である。という判断は適切でない。
エ：誤り。不適合があっても追加確認しない。という扱いは適切でない。
総合解説：基準に沿った代表性ある測定が必要である。

問題 0058
出来形図を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．設計値だけを書き写し実測値を残さない。

イ．出来形図には実測値や完成形状を設計図と対応させて記録する。

ウ．施工変更を出来形図に反映しない。

エ．完成後の維持管理に利用できない形式にする。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。設計値だけを書き写し実測値を残さない。という扱いは適切でない。
イ：正しい。出来形図には実測値や完成形状を設計図と対応させて記録する。
ウ：誤り。施工変更を出来形図に反映しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。完成後の維持管理に利用できない形式にする。という扱いは適切でない。
総合解説：出来形図は完成状態の記録として重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0059
土量計算について、最も適切な記述はどれか。
ア．盛土量と掘削量を常に同じとみなす。
イ．地山・締固め後の体積変化を一切考慮しない。
ウ．掘削・盛土量は断面・測点・地形データ等から所定の方法で算定する。
エ．断面間距離を無視して数量を求める。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。盛土量と掘削量を常に同じとみなす。という扱いは適切でない。
イ：誤り。地山・締固め後の体積変化を一切考慮しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。掘削・盛土量は断面・測点・地形データ等から所定の方法で算定する。
エ：誤り。断面間距離を無視して数量を求める。という扱いは適切でない。
総合解説：土量では状態による体積変化や算出条件を確認する。

問題 0060
現場で面積計算を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．法面を常に水平投影面積だけで無条件算定する。
イ．開口部の控除条件を確認しない。
ウ．単位換算を行わない。
エ．舗装・芝張り等の面積数量では平面寸法や法面実長など対象形状を正しく用いる。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。法面を常に水平投影面積だけで無条件算定する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。開口部の控除条件を確認しない。という判断は適切でない。
ウ：誤り。単位換算を行わない。という扱いは適切でない。
エ：正しい。舗装・芝張り等の面積数量では平面寸法や法面実長など対象形状を正しく用いる。
総合解説：施工対象の実形状と算出ルールを合わせる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0061
施工前確認のチェック項目『測定器精度』について検討している。測定器精度に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．出来形測定には要求精度を満たす測定器を使用し、点検状態を確認する。

イ．測定対象より粗い精度の器具でも常に十分である。

ウ．破損した器具を補正せず使う。

エ．器具の最小読取値は結果に関係しない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。出来形測定には要求精度を満たす測定器を使用し、点検状態を確認する。
イ：誤り。測定対象より粗い精度の器具でも常に十分である。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。破損した器具を補正せず使う。という判断は適切でない。
エ：誤り。器具の最小読取値は結果に関係しない。という扱いは適切でない。
総合解説：測定器の精度は判定の信頼性に直結する。

問題 0062
不適合判定を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．規格外でも記録せず合格扱いにする。

イ．規格値を外れた出来形は原因・範囲を確認し、所定の手続で是正・承認を行う。

ウ．測定値を書き換えて適合させる。

エ．原因調査をせず隠蔽する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。規格外でも記録せず合格扱いにする。という扱いは適切でない。
イ：正しい。規格値を外れた出来形は原因・範囲を確認し、所定の手続で是正・承認を行う。
ウ：誤り。測定値を書き換えて適合させる。という判断は適切でない。
エ：誤り。原因調査をせず隠蔽する。という扱いは適切でない。
総合解説：不適合は事実に基づき管理し是正する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0063
土の粒径について、最も適切な記述はどれか。
ア．全ての土は粒径に関係なく同じ性質である。
イ．砂質土は粘性土より必ず透水性が小さい。
ウ．土は粒径や塑性等により性質が異なり、施工性・透水性・支持性に影響する。
エ．粒度は締固め性に影響しない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。全ての土は粒径に関係なく同じ性質である。という扱いは適切でない。
イ：誤り。砂質土は粘性土より必ず透水性が小さい。という判断は適切でない。
ウ：正しい。土は粒径や塑性等により性質が異なり、施工性・透水性・支持性に影響する。
エ：誤り。粒度は締固め性に影響しない。という扱いは適切でない。
総合解説：土質分類は施工方法選定の基礎である。

問題 0064
現場で含水比を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．含水量は締固めに一切影響しない。
イ．水を多くするほど全ての土で強度が上がる。
ウ．含水比は土以外の材料にしか使わない。
エ．含水比は土の締固め性や強度に影響するため、必要に応じ管理する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。含水量は締固めに一切影響しない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。水を多くするほど全ての土で強度が上がる。という判断は適切でない。
ウ：誤り。含水比は土以外の材料にしか使わない。という扱いは適切でない。
エ：正しい。含水比は土の締固め性や強度に影響するため、必要に応じ管理する。
総合解説：最適含水比付近で締固め効果が高い土が多い。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0065
締固めに関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．盛土は適切な含水状態・まき出し厚・転圧回数で所定密度を確保する。

イ．一度に厚く盛るほど内部まで必ず締まる。

ウ．転圧回数は密度と無関係である。

エ．締固め後の密度確認は不要である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。盛土は適切な含水状態・まき出し厚・転圧回数で所定密度を確保する。
イ：誤り。一度に厚く盛るほど内部まで必ず締まる。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。転圧回数は密度と無関係である。という判断は適切でない。
エ：誤り。締固め後の密度確認は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：施工条件と締固め品質を関連付ける。

問題 0066
透水性を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．粘土は砂利より常に透水性が大きい。

イ．一般に粗粒土は細粒土より透水性が大きい傾向がある。

ウ．粒径は透水性に影響しない。

エ．地下水は地盤施工と無関係である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。粘土は砂利より常に透水性が大きい。という扱いは適切でない。
イ：正しい。一般に粗粒土は細粒土より透水性が大きい傾向がある。
ウ：誤り。粒径は透水性に影響しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。地下水は地盤施工と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：排水・湧水対策では土質と透水性を考慮する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0067
液性・塑性について、最も適切な記述はどれか。
ア．粘性土は含水状態で性状が変わらない。
イ．塑性は岩盤だけの性質である。
ウ．細粒土のコンシステンシーは含水状態により変化し施工性に影響する。
エ．液性限界等は土質判定に使わない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。粘性土は含水状態で性状が変わらない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。塑性は岩盤だけの性質である。という判断は適切でない。
ウ：正しい。細粒土のコンシステンシーは含水状態により変化し施工性に影響する。
エ：誤り。液性限界等は土質判定に使わない。という扱いは適切でない。
総合解説：細粒土では含水状態と強度・変形を確認する。

問題 0068
現場で支持地盤を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．設計で想定した支持層と違っても確認せず施工する。
イ．軟弱層があっても基礎性能に影響しない。
ウ．湧水は支持地盤確認と無関係である。
エ．基礎施工前に支持層の深さ・強度・均一性を確認する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。設計で想定した支持層と違っても確認せず施工する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。軟弱層があっても基礎性能に影響しない。という判断は適切でない。
ウ：誤り。湧水は支持地盤確認と無関係である。という扱いは適切でない。
エ：正しい。基礎施工前に支持層の深さ・強度・均一性を確認する。
総合解説：現地地盤と設計条件の一致確認が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0069
地盤沈下に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．軟弱地盤では荷重による圧密沈下や不同沈下を考慮する。

イ．軟弱地盤でも沈下は絶対に生じない。

ウ．不同沈下は構造物に影響しない。

エ．盛土速度は沈下・安定と無関係である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。軟弱地盤では荷重による圧密沈下や不同沈下を考慮する。
イ：誤り。軟弱地盤でも沈下は絶対に生じない。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。不同沈下は構造物に影響しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。盛土速度は沈下・安定と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：地盤変形を予測し段階施工・改良等を検討する。

問題 0070
地盤調査を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．地盤調査結果は基礎計画に使わない。

イ．ボーリング、標準貫入試験等の結果から地層・強度・地下水等を把握する。

ウ．調査地点間の地層変化は考慮不要である。

エ．地下水位は記録しない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。地盤調査結果は基礎計画に使わない。という扱いは適切でない。
イ：正しい。ボーリング、標準貫入試験等の結果から地層・強度・地下水等を把握する。
ウ：誤り。調査地点間の地層変化は考慮不要である。という判断は適切でない。
エ：誤り。地下水位は記録しない。という扱いは適切でない。
総合解説：地盤は空間的に変化するため調査結果を施工へ反映する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0071
法面安定について、最も適切な記述はどれか。

ア．勾配を急にするほど必ず安定する。

イ．地下水は法面崩壊に関係しない。

ウ．法面の安定は土質、勾配、高さ、地下水、降雨等に影響される。

エ．亀裂やはらみは点検不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。勾配を急にするほど必ず安定する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。地下水は法面崩壊に関係しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。法面の安定は土質、勾配、高さ、地下水、降雨等に影響される。
エ：誤り。亀裂やはらみは点検不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：排水と法面形状・土質を一体で評価する。

問題 0072
施工前確認のチェック項目『凍上』について検討している。現場で凍上を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．凍上は水分と無関係である。

イ．凍結しない地域でのみ発生する。

ウ．路盤・舗装には一切影響しない。

エ．寒冷地では土中水分の凍結による凍上を考慮する場合がある。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。凍上は水分と無関係である。という扱いは適切でない。
イ：誤り。凍結しない地域でのみ発生する。という判断は適切でない。
ウ：誤り。路盤・舗装には一切影響しない。という扱いは適切でない。
エ：正しい。寒冷地では土中水分の凍結による凍上を考慮する場合がある。
総合解説：凍結環境と土質・水分条件を考慮する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0073
施工前確認のチェック項目『表土』について検討している。施工前確認のチェック項目『表土』について検討している。表土に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．植栽基盤として利用する表土は性状を確認し、必要に応じ保全・再利用する。

イ．表土はどの土でも同品質なので選別不要である。

ウ．建設廃材を混ぜるほど植栽基盤に適する。

エ．仮置き中の締固め・浸食は考慮しない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。植栽基盤として利用する表土は性状を確認し、必要に応じ保全・再利用する。
イ：誤り。表土はどの土でも同品質なので選別不要である。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。建設廃材を混ぜるほど植栽基盤に適する。という判断は適切でない。
エ：誤り。仮置き中の締固め・浸食は考慮しない。という扱いは適切でない。
総合解説：表土保全は資源循環と植栽品質の双方に関係する。

問題 0074
土の単位体積重量を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．土の単位体積重量は構造計算と無関係である。

イ．土の自重は法面・擁壁・基礎等の荷重評価に関係する。

ウ．飽和しても重量は必ず変化しない。

エ．土質に関係なく全て同じ値を用いる。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。土の単位体積重量は構造計算と無関係である。という扱いは適切でない。
イ：正しい。土の自重は法面・擁壁・基礎等の荷重評価に関係する。
ウ：誤り。飽和しても重量は必ず変化しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。土質に関係なく全て同じ値を用いる。という扱いは適切でない。
総合解説：現場条件・土質に応じた物性値を用いる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0075
直接基礎について、最も適切な記述はどれか。
ア．必ず深さ50m以上の支持層へ荷重を伝える。
イ．地盤支持力を確認せず施工する。
ウ．直接基礎は浅い位置の良好な地盤へ荷重を伝える方式である。
エ．不同沈下は検討しない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。必ず深さ50m以上の支持層へ荷重を伝える。という扱いは適切でない。
イ：誤り。地盤支持力を確認せず施工する。という判断は適切でない。
ウ：正しい。直接基礎は浅い位置の良好な地盤へ荷重を伝える方式である。
エ：誤り。不同沈下は検討しない。という扱いは適切でない。
総合解説：支持力・沈下・根入れ等を確認する。

問題 0076
現場で杭基礎を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．杭は地表面だけで荷重を支える。
イ．施工管理で杭位置・鉛直性は確認不要である。
ウ．杭長は地盤条件と無関係に任意で決める。
エ．杭基礎は杭先端支持や周面摩擦等により深部へ荷重を伝える。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。杭は地表面だけで荷重を支える。という扱いは適切でない。
イ：誤り。施工管理で杭位置・鉛直性は確認不要である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。杭長は地盤条件と無関係に任意で決める。という扱いは適切でない。
エ：正しい。杭基礎は杭先端支持や周面摩擦等により深部へ荷重を伝える。
総合解説：杭施工では支持層・施工記録・出来形が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0077
地盤支持力に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．基礎底面の地盤が許容支持力を満たすか確認する。

イ．支持力が不足するほど基礎を小さくする。

ウ．支持力は荷重と無関係である。

エ．地盤改良後の確認は不要である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。基礎底面の地盤が許容支持力を満たすか確認する。
イ：誤り。支持力が不足するほど基礎を小さくする。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。支持力は荷重と無関係である。という判断は適切でない。
エ：誤り。地盤改良後の確認は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：荷重と地盤性能のバランスを確認する。

問題 0078
基礎底面を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．掘削底が軟化していてもそのままコンクリートを打つ。

イ．基礎底面は乱れた土や泥水を除去し、所定の支持地盤を確認して施工する。

ウ．湧水を放置して泥土上に施工する。

エ．支持層確認を写真・記録に残さない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。掘削底が軟化していてもそのままコンクリートを打つ。という扱いは適切でない。
イ：正しい。基礎底面は乱れた土や泥水を除去し、所定の支持地盤を確認して施工する。
ウ：誤り。湧水を放置して泥土上に施工する。という判断は適切でない。
エ：誤り。支持層確認を写真・記録に残さない。という扱いは適切でない。
総合解説：基礎底の健全性は完成後に見えなくなるため施工時確認が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0079
不同沈下について、最も適切な記述はどれか。
ア．支持条件が不均一なほど不同沈下は小さくなる。
イ．不同沈下は上部構造に影響しない。
ウ．基礎支持条件が場所で大きく異なると不同沈下のリスクが高まる。
エ．埋戻し締固めは不同沈下と無関係である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。支持条件が不均一なほど不同沈下は小さくなる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。不同沈下は上部構造に影響しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。基礎支持条件が場所で大きく異なると不同沈下のリスクが高まる。
エ：誤り。埋戻し締固めは不同沈下と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：地盤の均一性と荷重分布を考慮する。

問題 0080
現場で根入れを確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．根入れ深さは施工者が無制限に浅くしてよい。
イ．地表面変動は根入れと無関係である。
ウ．設計根入れの確認は不要である。
エ．基礎の根入れは安定、洗掘・凍結等の条件を踏まえ設計値を確保する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。根入れ深さは施工者が無制限に浅くしてよい。という扱いは適切でない。
イ：誤り。地表面変動は根入れと無関係である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。設計根入れの確認は不要である。という扱いは適切でない。
エ：正しい。基礎の根入れは安定、洗掘・凍結等の条件を踏まえ設計値を確保する。
総合解説：基礎位置・高さ・根入れを出来形管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0081
基礎コンクリートに関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．基礎コンクリートは型枠・鉄筋・アンカー位置等を確認して打設する。

イ．アンカーボルト位置は完成後に自由調整できるので管理不要。

ウ．型枠寸法は設計図と照合しない。

エ．打設中の締固めは不要である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。基礎コンクリートは型枠・鉄筋・アンカー位置等を確認して打設する。

イ：誤り。アンカーボルト位置は完成後に自由調整できるので管理不要。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。型枠寸法は設計図と照合しない。という判断は適切でない。

エ：誤り。打設中の締固めは不要である。という扱いは適切でない。

総合解説：後工程の設備・施設据付精度にも影響する。

問題 0082
施工前確認のチェック項目『地盤改良』について検討している。地盤改良を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．どの地盤にも同一改良工法が必ず最適である。

イ．地盤改良は対象土質・必要強度・改良範囲に適した工法を選び、品質確認を行う。

ウ．改良材量は管理しない。

エ．改良後強度は確認不要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。どの地盤にも同一改良工法が必ず最適である。という扱いは適切でない。

イ：正しい。地盤改良は対象土質・必要強度・改良範囲に適した工法を選び、品質確認を行う。

ウ：誤り。改良材量は管理しない。という判断は適切でない。

エ：誤り。改良後強度は確認不要である。という扱いは適切でない。

総合解説：設計要求と現場土質に応じた改良管理が必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0083
洗掘について、最も適切な記述はどれか。
ア．洗掘は基礎安定に影響しない。
イ．流水が速いほど必ず堆積だけが起こる。
ウ．水際構造物の基礎では流水による洗掘で支持地盤が失われるリスクを考慮する。
エ．洗掘防止工は不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。洗掘は基礎安定に影響しない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。流水が速いほど必ず堆積だけが起こる。という判断は適切でない。
ウ：正しい。水際構造物の基礎では流水による洗掘で支持地盤が失われるリスクを考慮する。
エ：誤り。洗掘防止工は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：水理条件と基礎根入れ・保護工を関連付ける。

問題 0084
現場で載荷確認を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．試験結果が設計条件と異なっても無視する。
イ．試験荷重・計測条件は記録不要である。
ウ．支持性能は外観だけで必ず判定できる。
エ．必要に応じ載荷試験等で地盤・杭の支持性能を確認する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。試験結果が設計条件と異なっても無視する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。試験荷重・計測条件は記録不要である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。支持性能は外観だけで必ず判定できる。という扱いは適切でない。
エ：正しい。必要に応じ載荷試験等で地盤・杭の支持性能を確認する。
総合解説：性能確認結果を施工・設計判断へ反映する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0085
掘削法面について、最も適切な記述はどれか。
ア．掘削は土質・深さ・地下水等に応じ安全な勾配や山留めを計画する。
イ．深い掘削ほど垂直無支保が必ず安全である。
ウ．土質は掘削安定と無関係である。
エ．降雨後も点検不要である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。掘削は土質・深さ・地下水等に応じ安全な勾配や山留めを計画する。
イ：誤り。深い掘削ほど垂直無支保が必ず安全である。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。土質は掘削安定と無関係である。という判断は適切でない。
エ：誤り。降雨後も点検不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：崩壊防止は事前計画と日常点検の双方が必要である。

問題 0086
現場で山留め支保工を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．切ばりを無断撤去しても安定に影響しない。
イ．山留め支保工は土圧・水圧等に抵抗し掘削面の安定を確保する。
ウ．腹起しの変形は点検不要である。
エ．設置順序は安定と無関係である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。切ばりを無断撤去しても安定に影響しない。という扱いは適切でない。
イ：正しい。山留め支保工は土圧・水圧等に抵抗し掘削面の安定を確保する。
ウ：誤り。腹起しの変形は点検不要である。という判断は適切でない。
エ：誤り。設置順序は安定と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：支保工の組立・変位・撤去手順を管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0087
湧水対策に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．湧水が多いほど掘削底は必ず安定する。

イ．排水による周辺地盤沈下は考慮不要である。

ウ．掘削底への湧水はボイリング・盤ぶくれ・地盤軟化等のリスクを考慮して排水計画を立てる。

エ．水替え設備の予備は不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。湧水が多いほど掘削底は必ず安定する。という扱いは適切でない。

イ：誤り。排水による周辺地盤沈下は考慮不要である。という判断は適切でない。

ウ：正しい。掘削底への湧水はボイリング・盤ぶくれ・地盤軟化等のリスクを考慮して排水計画を立てる。

エ：誤り。水替え設備の予備は不要である。という扱いは適切でない。

総合解説：地下水対策は掘削安定と周辺影響を同時に考える。

問題 0088
掘削土仮置きを適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．掘削縁へできるだけ高く積む。

イ．上載荷重は崩壊に影響しない。

ウ．重機も掘削縁ぎりぎりへ常時配置する。

エ．掘削土や資材は掘削縁に過大な上載荷重を与えない位置へ仮置きする。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。掘削縁へできるだけ高く積む。という扱いは適切でない。

イ：誤り。上載荷重は崩壊に影響しない。という判断は適切でない。

ウ：誤り。重機も掘削縁ぎりぎりへ常時配置する。という扱いは適切でない。

エ：正しい。掘削土や資材は掘削縁に過大な上載荷重を与えない位置へ仮置きする。

総合解説：掘削周辺の荷重管理は法面・山留め安定に関係する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0089
埋設物について、最も適切な記述はどれか。
ア．掘削前に地下埋設物の位置・管理者情報を確認し、必要に応じ試掘する。
イ．図面が古くても現地確認は不要。
ウ．不明埋設物は重機でそのまま掘り進める。
エ．管理者との協議は不要である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。掘削前に地下埋設物の位置・管理者情報を確認し、必要に応じ試掘する。
イ：誤り。図面が古くても現地確認は不要。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。不明埋設物は重機でそのまま掘り進める。という判断は適切でない。
エ：誤り。管理者との協議は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：埋設物損傷は重大な公衆災害につながる。

問題 0090
現場で重機と人の分離を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．重機運転者が見えない位置ほど人を配置する。
イ．掘削機械の旋回・後退範囲へ作業員が不用意に入らないよう立入管理する。
ウ．誘導員と運転者の合図は不要である。
エ．接触防止措置は夜間だけ必要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。重機運転者が見えない位置ほど人を配置する。という扱いは適切でない。
イ：正しい。掘削機械の旋回・後退範囲へ作業員が不用意に入らないよう立入管理する。
ウ：誤り。誘導員と運転者の合図は不要である。という判断は適切でない。
エ：誤り。接触防止措置は夜間だけ必要である。という扱いは適切でない。
総合解説：重機災害防止には動線分離と合図統一が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0091
降雨後点検に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．降雨後は地山が必ず強くなる。

イ．亀裂の発生は崩壊兆候にならない。

ウ．大雨後は地山の亀裂・浮石・湧水・含水状態等の変化を確認してから作業する。

エ．点検記録は不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。降雨後は地山が必ず強くなる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。亀裂の発生は崩壊兆候にならない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。大雨後は地山の亀裂・浮石・湧水・含水状態等の変化を確認してから作業する。
エ：誤り。点検記録は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：気象変化後は地山状態を再評価する。

問題 0092
出入口を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．梯子は固定せず不安定に置く。

イ．重機バケットを常用の昇降設備にする。

ウ．昇降経路を資材で塞ぐ。

エ．掘削内への昇降設備を安全な位置に設け、飛び降り・法面昇降を避ける。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。梯子は固定せず不安定に置く。という扱いは適切でない。
イ：誤り。重機バケットを常用の昇降設備にする。という判断は適切でない。
ウ：誤り。昇降経路を資材で塞ぐ。という扱いは適切でない。
エ：正しい。掘削内への昇降設備を安全な位置に設け、飛び降り・法面昇降を避ける。
総合解説：安全な出入り経路を確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0093
騒音85dBについて、最も適切な記述はどれか。
ア．特定建設作業の騒音は所定区域で敷地境界において85dBを超えない基準がある。
イ．特定建設作業の基準は必ず55dBである。
ウ．敷地境界の騒音基準は存在しない。
エ．100dBまで無条件に許される。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。特定建設作業の騒音は所定区域で敷地境界において85dBを超えない基準がある。
イ：誤り。特定建設作業の基準は必ず55dBである。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。敷地境界の騒音基準は存在しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。100dBまで無条件に許される。という扱いは適切でない。
総合解説：騒音規制は音量・時間帯等を確認する。

問題 0094
現場で低騒音機械を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．故障機械を使い続けるほど騒音が下がる。
イ．低騒音型機械や適切な整備により発生源騒音を低減する。
ウ．低騒音機械なら時間帯規制等は全て無効になる。
エ．機械配置は周辺影響と無関係である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。故障機械を使い続けるほど騒音が下がる。という扱いは適切でない。
イ：正しい。低騒音型機械や適切な整備により発生源騒音を低減する。
ウ：誤り。低騒音機械なら時間帯規制等は全て無効になる。という判断は適切でない。
エ：誤り。機械配置は周辺影響と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：発生源対策を優先し遮音等を組み合わせる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0095
防音設備に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．大きな隙間を設けるほど遮音効果が高い。

イ．騒音源と反対側だけに置けばよい。

ウ．防音パネルは騒音源と受音点の位置関係、隙間、高さを考えて配置する。

エ．倒壊防止は考えなくてよい。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。大きな隙間を設けるほど遮音効果が高い。という扱いは適切でない。
イ：誤り。騒音源と反対側だけに置けばよい。という判断は適切でない。
ウ：正しい。防音パネルは騒音源と受音点の位置関係、隙間、高さを考えて配置する。
エ：誤り。倒壊防止は考えなくてよい。という扱いは適切でない。
総合解説：音響対策と仮設安全を両立する。

問題 0096
振動対策を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．振動源を住宅へ近づけるほど影響が減る。

イ．地盤条件は振動伝搬と無関係である。

ウ．苦情発生後も作業条件を見直さない。

エ．振動の大きい作業では低振動工法、機械選定、作業時間調整等を検討する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。振動源を住宅へ近づけるほど影響が減る。という扱いは適切でない。
イ：誤り。地盤条件は振動伝搬と無関係である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。苦情発生後も作業条件を見直さない。という扱いは適切でない。
エ：正しい。振動の大きい作業では低振動工法、機械選定、作業時間調整等を検討する。
総合解説：工法・機械・距離・地盤を総合する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0097
周辺施設について、最も適切な記述はどれか。

ア．住宅・病院・学校等の位置と利用時間を把握して高騒音作業を計画する。

イ．周辺用途は一切確認しない。

ウ．夜間に高騒音作業を集中させることを原則とする。

エ．苦情が出るまで対策しない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。住宅・病院・学校等の位置と利用時間を把握して高騒音作業を計画する。
イ：誤り。周辺用途は一切確認しない。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。夜間に高騒音作業を集中させることを原則とする。という判断は適切でない。
エ：誤り。苦情が出るまで対策しない。という扱いは適切でない。
総合解説：周辺環境の感受性を施工計画へ反映する。

問題 0098
施工前確認のチェック項目『測定』について検討している。施工前確認のチェック項目『測定』について検討している。施工前確認のチェック項目『測定』について検討している。施工前確認のチェック項目『測定』について検討している。施工前確認のチェック項目『測定』について検討している。現場で測定を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．測定位置を毎回大きく変えて比較する。

イ．騒音・振動対策の効果は適切な測定位置・条件で対策前後を比較する。

ウ．数値を記録しない。

エ．体感だけで必ず法令適合を判断する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。測定位置を毎回大きく変えて比較する。という扱いは適切でない。
イ：正しい。騒音・振動対策の効果は適切な測定位置・条件で対策前後を比較する。
ウ：誤り。数値を記録しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。体感だけで必ず法令適合を判断する。という扱いは適切でない。
総合解説：客観的記録により対策効果を評価する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0099
作業時間に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．音量基準だけ守れば24時間連続作業できる。

イ．休日・時間帯の規制は存在しない。

ウ．特定建設作業には区域に応じ作業禁止時間帯等の規制がある。

エ．許可を得れば全ての騒音規制が消える。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。音量基準だけ守れば24時間連続作業できる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。休日・時間帯の規制は存在しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。特定建設作業には区域に応じ作業禁止時間帯等の規制がある。
エ：誤り。許可を得れば全ての騒音規制が消える。という扱いは適切でない。
総合解説：自治体指定区域・届出条件も確認する。

問題 0100
複数騒音源を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．騒音源が増えるほど必ず総騒音が小さくなる。

イ．同時稼働は周辺影響と無関係である。

ウ．高騒音機械を周辺境界へ集中させる。

エ．複数の騒音作業を同時実施すると合成影響が大きくなるため時間・場所を調整する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。騒音源が増えるほど必ず総騒音が小さくなる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。同時稼働は周辺影響と無関係である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。高騒音機械を周辺境界へ集中させる。という扱いは適切でない。
エ：正しい。複数の騒音作業を同時実施すると合成影響が大きくなるため時間・場所を調整する。
総合解説：累積影響を考慮した工程調整が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0101
苦情対応について、最も適切な記述はどれか。

ア．苦情が生じたら発生源・時間帯・測定値・周辺条件を確認し追加対策を行う。

イ．苦情は記録せず無視する。

ウ．原因分析をせず作業員個人だけを責める。

エ．対策後の確認はしない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。苦情が生じたら発生源・時間帯・測定値・周辺条件を確認し追加対策を行う。

イ：誤り。苦情は記録せず無視する。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。原因分析をせず作業員個人だけを責める。という判断は適切でない。

エ：誤り。対策後の確認はしない。という扱いは適切でない。

総合解説：苦情情報を環境管理改善へ活用する。

問題 0102
施工前確認のチェック項目『機械配置』について検討している。現場で機械配置を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．住宅境界にできるだけ近づける。

イ．固定的な騒音機械は可能な範囲で建物等による遮蔽や受音点からの距離を考慮して配置する。

ウ．距離による影響差はない。

エ．遮蔽物の位置は音の伝搬と無関係である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。住宅境界にできるだけ近づける。という扱いは適切でない。

イ：正しい。固定的な騒音機械は可能な範囲で建物等による遮蔽や受音点からの距離を考慮して配置する。

ウ：誤り。距離による影響差はない。という判断は適切でない。

エ：誤り。遮蔽物の位置は音の伝搬と無関係である。という扱いは適切でない。

総合解説：配置計画も有効な発生・伝搬対策である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0103
濁水について、最も適切な記述はどれか。
ア．濁水を無処理で河川へ直接流す。
イ．濁度は水環境と無関係である。
ウ．工事濁水は沈砂・沈殿等で処理し、排水先の条件を確認して放流する。
エ．沈砂池は流速を上げるために設ける。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。濁水を無処理で河川へ直接流す。という扱いは適切でない。
イ：誤り。濁度は水環境と無関係である。という判断は適切でない。
ウ：正しい。工事濁水は沈砂・沈殿等で処理し、排水先の条件を確認して放流する。
エ：誤り。沈砂池は流速を上げるために設ける。という扱いは適切でない。
総合解説：排水は発生源・処理・排水先を一体管理する。

問題 0104
現場で沈砂池を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．沈砂池は水を加熱する設備である。
イ．土砂を満杯にして容量をなくす。
ウ．越流状況は確認しない。
エ．沈砂池は流速を低下させ土粒子を沈降させるために用いる。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。沈砂池は水を加熱する設備である。という扱いは適切でない。
イ：誤り。土砂を満杯にして容量をなくす。という判断は適切でない。
ウ：誤り。越流状況は確認しない。という扱いは適切でない。
エ：正しい。沈砂池は流速を低下させ土粒子を沈降させるために用いる。
総合解説：堆積土砂除去など維持管理も必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0105
仮排水に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．施工中は地形・降雨を考慮して仮排水路を設け、作業区域への流入や土砂流出を抑える。

イ．雨水を裸地へ集中させる。

ウ．排水経路を現場ごとに確認しない。

エ．仮排水路の詰まりは放置する。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。施工中は地形・降雨を考慮して仮排水路を設け、作業区域への流入や土砂流出を抑える。

イ：誤り。雨水を裸地へ集中させる。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。排水経路を現場ごとに確認しない。という判断は適切でない。

エ：誤り。仮排水路の詰まりは放置する。という扱いは適切でない。

総合解説：施工段階に応じ排水系統を更新する。

問題 0106
表面侵食を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．法面上部の水を一点へ集中させる。

イ．裸地法面はシート、植生、排水等で侵食と土砂流出を抑える。

ウ．裸地面積を増やすほど濁水が減る。

エ．降雨前の養生は不要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。法面上部の水を一点へ集中させる。という扱いは適切でない。

イ：正しい。裸地法面はシート、植生、排水等で侵食と土砂流出を抑える。

ウ：誤り。裸地面積を増やすほど濁水が減る。という判断は適切でない。

エ：誤り。降雨前の養生は不要である。という扱いは適切でない。

総合解説：侵食防止と流出土砂捕捉を組み合わせる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0107
油流出について、最も適切な記述はどれか。
ア．給油は排水溝上で行うことを原則とする。
イ．漏えいしても土で埋めて記録しない。
ウ．燃料・油脂の保管や給油では漏えい防止、受け皿、吸着材等を準備する。
エ．油は水質に影響しない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。給油は排水溝上で行うことを原則とする。という扱いは適切でない。
イ：誤り。漏えいしても土で埋めて記録しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。燃料・油脂の保管や給油では漏えい防止、受け皿、吸着材等を準備する。
エ：誤り。油は水質に影響しない。という扱いは適切でない。
総合解説：事故時の遮断・回収・報告手順を準備する。

問題 0108
現場で建設廃棄物を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．全て混合して最終処分することを優先する。
イ．処理先は確認せず搬出する。
ウ．飛散・流出する状態で保管する。
エ．建設廃棄物は分別し、再利用・再資源化と適正処理を進める。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。全て混合して最終処分することを優先する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。処理先は確認せず搬出する。という判断は適切でない。
ウ：誤り。飛散・流出する状態で保管する。という扱いは適切でない。
エ：正しい。建設廃棄物は分別し、再利用・再資源化と適正処理を進める。
総合解説：発生抑制から処理完了確認まで管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0109
粉じんに関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．乾燥土工では散水、覆い、清掃、走行速度管理等で粉じん飛散を抑える。

イ．車両速度を上げて粉じんを拡散する。

ウ．土砂を高所から落とす。

エ．散水は多いほど必ず良く排水は考えない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。乾燥土工では散水、覆い、清掃、走行速度管理等で粉じん飛散を抑える。

イ：誤り。車両速度を上げて粉じんを拡散する。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。土砂を高所から落とす。という判断は適切でない。

エ：誤り。散水は多いほど必ず良く排水は考えない。という扱いは適切でない。

総合解説：粉じん対策が濁水を生まないよう調整する。

問題 0110
生態系配慮を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．保全対象が確認されても工程を変えない。

イ．希少種・繁殖期・水辺環境等の条件がある場合、調査結果や保全措置を施工計画へ反映する。

ウ．保全区域へ資材を置く。

エ．施工後まで環境条件を確認しない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。保全対象が確認されても工程を変えない。という扱いは適切でない。

イ：正しい。希少種・繁殖期・水辺環境等の条件がある場合、調査結果や保全措置を施工計画へ反映する。

ウ：誤り。保全区域へ資材を置く。という判断は適切でない。

エ：誤り。施工後まで環境条件を確認しない。という扱いは適切でない。

総合解説：自然環境条件に応じて施工時期・範囲を調整する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0111
大雨前点検について、最も適切な記述はどれか。

ア．沈砂池を土砂で満杯にしておく。

イ．排水口を塞ぐ。

ウ．大雨前は排水路・沈砂設備・裸地養生・資材流出防止を点検する。

エ．資材を水路内へ仮置きする。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。沈砂池を土砂で満杯にしておく。という扱いは適切でない。

イ：誤り。排水口を塞ぐ。という判断は適切でない。

ウ：正しい。大雨前は排水路・沈砂設備・裸地養生・資材流出防止を点検する。

エ：誤り。資材を水路内へ仮置きする。という扱いは適切でない。

総合解説：予防的な気象対応が環境事故防止に有効である。

問題 0112
仮設電気について、最も適切な記述はどれか。

ア．濡れた場所で裸電線を使用する。

イ．漏電遮断器は不要である。

ウ．ケーブル損傷を放置する。

エ．仮設電気設備は漏電・感電防止のため適切な保護装置、接地、防水等を確保する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。濡れた場所で裸電線を使用する。という扱いは適切でない。

イ：誤り。漏電遮断器は不要である。という判断は適切でない。

ウ：誤り。ケーブル損傷を放置する。という扱いは適切でない。

エ：正しい。仮設電気設備は漏電・感電防止のため適切な保護装置、接地、防水等を確保する。

総合解説：仮設設備も本設同様に安全管理が必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0113
現場で仮設給水を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．仮設給水は必要水量・水質・凍結や漏水対策を考えて配置する。

イ．漏水を放置する。

ウ．飲用水と工事用水を識別しない。

エ．配管保護は不要である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。仮設給水は必要水量・水質・凍結や漏水対策を考えて配置する。
イ：誤り。漏水を放置する。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。飲用水と工事用水を識別しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。配管保護は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：用途・衛生・維持管理を明確にする。

問題 0114
現場照明に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．照明を減らすほど安全になる。

イ．夜間・暗所作業では作業内容と通路に必要な照度を確保し、まぶしさや影を抑える。

ウ．通路は暗いままにする。

エ．電源ケーブルを歩行動線へ無保護で置く。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。照明を減らすほど安全になる。という扱いは適切でない。
イ：正しい。夜間・暗所作業では作業内容と通路に必要な照度を確保し、まぶしさや影を抑える。
ウ：誤り。通路は暗いままにする。という判断は適切でない。
エ：誤り。電源ケーブルを歩行動線へ無保護で置く。という扱いは適切でない。
総合解説：視認性と電気安全を同時に確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0115
仮設通路を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．資材を通路へ常時積み上げる。

イ．開口部の養生は不要である。

ウ．仮設通路は十分な幅、段差対策、滑り防止、照明等を確保する。

エ．避難経路と資材置場を重ねる。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。資材を通路へ常時積み上げる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。開口部の養生は不要である。という判断は適切でない。
ウ：正しい。仮設通路は十分な幅、段差対策、滑り防止、照明等を確保する。
エ：誤り。避難経路と資材置場を重ねる。という扱いは適切でない。
総合解説：安全な人流を維持する。

問題 0116
仮囲いについて、最も適切な記述はどれか。

ア．風荷重を考慮しない。

イ．出入口を無管理にする。

ウ．倒れかけても使用を継続する。

エ．仮囲いは第三者侵入防止と公衆災害防止を考え、安定した構造で設置する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。風荷重を考慮しない。という扱いは適切でない。
イ：誤り。出入口を無管理にする。という判断は適切でない。
ウ：誤り。倒れかけても使用を継続する。という扱いは適切でない。
エ：正しい。仮囲いは第三者侵入防止と公衆災害防止を考え、安定した構造で設置する。
総合解説：仮囲いは周辺安全と現場セキュリティに関係する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0117
現場で排水ポンプを確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．仮設排水ポンプは必要能力・予備・電源・吸込み詰まり等を管理する。

イ．故障時の代替手段は不要である。

ウ．能力不足でも豪雨時にそのまま使う。

エ．点検を行わない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。仮設排水ポンプは必要能力・予備・電源・吸込み詰まり等を管理する。

イ：誤り。故障時の代替手段は不要である。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。能力不足でも豪雨時にそのまま使う。という判断は適切でない。

エ：誤り。点検を行わない。という扱いは適切でない。

総合解説：排水停止が掘削安定や環境事故に直結する場合がある。

問題 0118
足場・作業床に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．仮設物なので強度確認は不要である。

イ．仮設足場や作業床は組立状態・手すり・床材・点検等を法令・計画に従い管理する。

ウ．手すりを作業の邪魔なら無断撤去する。

エ．悪天候後も点検しない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。仮設物なので強度確認は不要である。という扱いは適切でない。

イ：正しい。仮設足場や作業床は組立状態・手すり・床材・点検等を法令・計画に従い管理する。

ウ：誤り。手すりを作業の邪魔なら無断撤去する。という判断は適切でない。

エ：誤り。悪天候後も点検しない。という扱いは適切でない。

総合解説：仮設物の変化を継続的に点検する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0119
仮設ヤードを適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．軟弱地盤に重量物を無計画に集中する。

イ．可燃物を火気の隣へ置く。

ウ．資材ヤードは重機動線・排水・地耐力・火気・第三者動線を考えて配置する。

エ．人と重機の動線を重ねる。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。軟弱地盤に重量物を無計画に集中する。という扱いは適切でない。

イ：誤り。可燃物を火気の隣へ置く。という判断は適切でない。

ウ：正しい。資材ヤードは重機動線・排水・地耐力・火気・第三者動線を考えて配置する。

エ：誤り。人と重機の動線を重ねる。という扱いは適切でない。

総合解説：ヤード配置は安全・品質・効率に影響する。

問題 0120
仮設撤去について、最も適切な記述はどれか。

ア．完成直前に無計画で一斉撤去する。

イ．安全設備を本作業終了前に外す。

ウ．撤去跡を復旧しない。

エ．仮設設備の撤去は本設物・周辺利用者への影響を確認し、施工順序と復旧を計画する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。完成直前に無計画で一斉撤去する。という扱いは適切でない。

イ：誤り。安全設備を本作業終了前に外す。という判断は適切でない。

ウ：誤り。撤去跡を復旧しない。という扱いは適切でない。

エ：正しい。仮設設備の撤去は本設物・周辺利用者への影響を確認し、施工順序と復旧を計画する。

総合解説：仮設は設置から撤去まで施工計画に含める。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0121
事前調査について、最も適切な記述はどれか。
ア．施工計画前に現地条件、設計図書、地下埋設物、周辺環境、工程制約等を調査する。
イ．着工後まで現地を確認しない。
ウ．設計図書の矛盾を放置する。
エ．周辺利用者の条件を無視する。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。施工計画前に現地条件、設計図書、地下埋設物、周辺環境、工程制約等を調査する。
イ：誤り。着工後まで現地を確認しない。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。設計図書の矛盾を放置する。という判断は適切でない。
エ：誤り。周辺利用者の条件を無視する。という扱いは適切でない。
総合解説：事前調査はリスク・品質・工程計画の基礎である。

問題 0122
現場で施工手順を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．後工程を先に施工して干渉しても気にしない。
イ．施工手順は前後工程、養生期間、作業空間、安全性、検査時期を考えて決める。
ウ．検査前に隠蔽する。
エ．養生期間を無条件で省略する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。後工程を先に施工して干渉しても気にしない。という扱いは適切でない。
イ：正しい。施工手順は前後工程、養生期間、作業空間、安全性、検査時期を考えて決める。
ウ：誤り。検査前に隠蔽する。という判断は適切でない。
エ：誤り。養生期間を無条件で省略する。という扱いは適切でない。
総合解説：手順は品質確保と手戻り防止に直結する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0123
工程計画に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．全作業を同日に重ねる。

イ．人員・機械能力を考慮しない。

ウ．工程は必要工期、資源、気象、休日、クリティカル作業等を考えて設定する。

エ．天候影響を受ける作業も余裕ゼロにする。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。全作業を同日に重ねる。という扱いは適切でない。
イ：誤り。人員・機械能力を考慮しない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。工程は必要工期、資源、気象、休日、クリティカル作業等を考えて設定する。
エ：誤り。天候影響を受ける作業も余裕ゼロにする。という扱いは適切でない。
総合解説：実行可能性とリスクを含む工程計画が必要である。

問題 0124
品質計画を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．完成後に初めて品質基準を決める。

イ．測定方法は担当者ごとに任意とする。

ウ．不適合時の処置を決めない。

エ．品質管理項目、規格値、測定方法、頻度、記録、責任者を施工前に定める。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。完成後に初めて品質基準を決める。という扱いは適切でない。
イ：誤り。測定方法は担当者ごとに任意とする。という判断は適切でない。
ウ：誤り。不適合時の処置を決めない。という扱いは適切でない。
エ：正しい。品質管理項目、規格値、測定方法、頻度、記録、責任者を施工前に定める。
総合解説：品質計画を作業手順と連動させる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0125
安全計画について、最も適切な記述はどれか。
ア．危険源を洗い出し、設備・作業方法・立入管理・教育・緊急時対応を計画する。
イ．保護具だけで全ての危険を解決する。
ウ．危険源の除去を検討しない。
エ．緊急連絡体制を作らない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。危険源を洗い出し、設備・作業方法・立入管理・教育・緊急時対応を計画する。
イ：誤り。保護具だけで全ての危険を解決する。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。危険源の除去を検討しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。緊急連絡体制を作らない。という扱いは適切でない。
総合解説：リスク低減の優先順位を考える。

問題 0126
現場で環境計画を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．苦情が発生するまで環境対策しない。
イ．騒音・振動、濁水、粉じん、廃棄物、生態系等の影響を事前評価し対策を計画する。
ウ．排水先を確認しない。
エ．廃棄物処理先を未定で着工する。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。苦情が発生するまで環境対策しない。という扱いは適切でない。
イ：正しい。騒音・振動、濁水、粉じん、廃棄物、生態系等の影響を事前評価し対策を計画する。
ウ：誤り。排水先を確認しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。廃棄物処理先を未定で着工する。という扱いは適切でない。
総合解説：施工中の環境影響を予防的に管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0127
施工ヤードに関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．動線交差を増やすほど効率が良い。

イ．資材を避難経路へ置く。

ウ．施工ヤードは搬入、仮置き、重機旋回、人流、排水、防火を考えて配置する。

エ．地耐力を確認しない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。動線交差を増やすほど効率が良い。という扱いは適切でない。
イ：誤り。資材を避難経路へ置く。という判断は適切でない。
ウ：正しい。施工ヤードは搬入、仮置き、重機旋回、人流、排水、防火を考えて配置する。
エ：誤り。地耐力を確認しない。という扱いは適切でない。
総合解説：ヤード計画は安全と生産性の両方に影響する。

問題 0128
施工前確認のチェック項目『検査計画』について検討している。検査計画を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．検査対象を埋戻した後にだけ確認する。

イ．検査記録は不要である。

ウ．不合格でも次工程へ無条件に進む。

エ．中間・不可視部・完成検査の時期を工程へ組み込み、検査前に隠蔽しない。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。検査対象を埋戻した後にだけ確認する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。検査記録は不要である。という判断は適切でない。
ウ：誤り。不合格でも次工程へ無条件に進む。という扱いは適切でない。
エ：正しい。中間・不可視部・完成検査の時期を工程へ組み込み、検査前に隠蔽しない。
総合解説：ホールドポイントを明確にする。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0129
変更管理について、最も適切な記述はどれか。

ア．現場条件変更時は影響を工程・品質・安全・費用へ展開し、必要な承認を得て計画を更新する。

イ．変更を口頭だけで処理する。

ウ．変更前図面を継続使用する。

エ．関係者へ共有しない。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。現場条件変更時は影響を工程・品質・安全・費用へ展開し、必要な承認を得て計画を更新する。
イ：誤り。変更を口頭だけで処理する。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。変更前図面を継続使用する。という判断は適切でない。
エ：誤り。関係者へ共有しない。という扱いは適切でない。
総合解説：変更管理は手戻り・事故防止に重要である。

問題 0130
施工前確認のチェック項目『緊急時計画』について検討している。現場で緊急時計画を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．緊急連絡先を事故後に探す。

イ．災害・事故・豪雨等に備え連絡網、退避、資機材停止、復旧判断手順を定める。

ウ．退避場所を決めない。

エ．非常用資機材を点検しない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。緊急連絡先を事故後に探す。という扱いは適切でない。
イ：正しい。災害・事故・豪雨等に備え連絡網、退避、資機材停止、復旧判断手順を定める。
ウ：誤り。退避場所を決めない。という判断は適切でない。
エ：誤り。非常用資機材を点検しない。という扱いは適切でない。
総合解説：緊急時に迷わず行動できる具体的手順が必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0131
近隣調整に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．利用者動線を無告知で閉鎖する。

イ．苦情窓口を設けない。

ウ．公園利用者・住民・管理者等へ工事範囲・期間・通行規制等を適切に周知する。

エ．施工時間の約束を共有しない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。利用者動線を無告知で閉鎖する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。苦情窓口を設けない。という判断は適切でない。
ウ：正しい。公園利用者・住民・管理者等へ工事範囲・期間・通行規制等を適切に周知する。
エ：誤り。施工時間の約束を共有しない。という扱いは適切でない。
総合解説：第三者との調整は公衆災害・苦情防止に有効である。

問題 0132
施工計画書を現場で実効的に運用するため、作成後の取扱いとして最も適切なものはどれか。

ア．他現場の計画書を名称だけ変えてそのまま使う。

イ．現場変更があっても更新しない。

ウ．作業員が参照できない状態にする。

エ．施工計画書は実際の現場条件と施工方法を反映し、変更時に必要な見直しを行う。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。他現場の計画書を名称だけ変えてそのまま使う。という扱いは適切でない。
イ：誤り。現場変更があっても更新しない。という判断は適切でない。
ウ：誤り。作業員が参照できない状態にする。という扱いは適切でない。
エ：正しい。施工計画書は実際の現場条件と施工方法を反映し、変更時に必要な見直しを行う。
総合解説：計画書を実行可能な管理文書として運用する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0133
機械選定について、最も適切な記述はどれか。
ア．建設機械は作業量、作業空間、地盤、騒音、能力、安全性に適したものを選ぶ。
イ．最大機械を選べば狭い現場でも必ず最適である。
ウ．定格能力を無視する。
エ．地盤支持力は機械選定と無関係である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。建設機械は作業量、作業空間、地盤、騒音、能力、安全性に適したものを選ぶ。
イ：誤り。最大機械を選べば狭い現場でも必ず最適である。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。定格能力を無視する。という判断は適切でない。
エ：誤り。地盤支持力は機械選定と無関係である。という扱いは適切でない。
総合解説：機械能力と現場条件を一致させる。

問題 0134
現場で始業点検を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．警報装置が故障していても使用する。
イ．建設機械は始業前点検等でブレーキ、警報、油漏れ、保護装置等を確認する。
ウ．油漏れは環境・安全に影響しない。
エ．点検記録は不要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。警報装置が故障していても使用する。という扱いは適切でない。
イ：正しい。建設機械は始業前点検等でブレーキ、警報、油漏れ、保護装置等を確認する。
ウ：誤り。油漏れは環境・安全に影響しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。点検記録は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：異常を作業開始前に発見・是正する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0135
定格荷重に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．能力表を見ず感覚で吊る。

イ．作業半径が変わっても能力は必ず一定である。

ウ．揚重機械は定格荷重・作業半径等の能力範囲内で使用する。

エ．過負荷防止装置を解除する。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。能力表を見ず感覚で吊る。という扱いは適切でない。
イ：誤り。作業半径が変わっても能力は必ず一定である。という判断は適切でない。
ウ：正しい。揚重機械は定格荷重・作業半径等の能力範囲内で使用する。
エ：誤り。過負荷防止装置を解除する。という扱いは適切でない。
総合解説：能力条件を確認して過負荷を防止する。

問題 0136
資材搬入を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．荷卸し場所を決めず車両を呼ぶ。

イ．歩行者動線へ大型車を無誘導で進入させる。

ウ．受入検査前に全量使用する。

エ．資材搬入は納期、荷卸し場所、車両動線、受入検査を工程と合わせて計画する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。荷卸し場所を決めず車両を呼ぶ。という扱いは適切でない。
イ：誤り。歩行者動線へ大型車を無誘導で進入させる。という判断は適切でない。
ウ：誤り。受入検査前に全量使用する。という扱いは適切でない。
エ：正しい。資材搬入は納期、荷卸し場所、車両動線、受入検査を工程と合わせて計画する。
総合解説：搬入計画は安全・品質・工程の接点である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0137
保管について、最も適切な記述はどれか。
ア．資材は材質に応じ防水・防湿・変形防止・識別等を行う。
イ．木材もセメントも同じ屋外水没状態で保管する。
ウ．不適合材と適合材を混在させる。
エ．先入れ先出しやロット管理を不要とする。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。資材は材質に応じ防水・防湿・変形防止・識別等を行う。
イ：誤り。木材もセメントも同じ屋外水没状態で保管する。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。不適合材と適合材を混在させる。という判断は適切でない。
エ：誤り。先入れ先出しやロット管理を不要とする。という扱いは適切でない。
総合解説：保管中の劣化と取り違えを防止する。

問題 0138
現場で重機動線を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．死角へ歩行者を集中させる。
イ．重機と歩行者の動線を可能な限り分離し、交差部では誘導・合図を定める。
ウ．後退警報がなくても誘導不要である。
エ．交差箇所を無表示にする。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。死角へ歩行者を集中させる。という扱いは適切でない。
イ：正しい。重機と歩行者の動線を可能な限り分離し、交差部では誘導・合図を定める。
ウ：誤り。後退警報がなくても誘導不要である。という判断は適切でない。
エ：誤り。交差箇所を無表示にする。という扱いは適切でない。
総合解説：接触災害防止には動線計画が有効である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0139
燃料管理に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．排水溝脇で無受け皿給油する。

イ．消火設備は不要である。

ウ．燃料は火気・漏えい・盗難・環境汚染を考えて所定の方法で保管・給油する。

エ．漏えい記録を残さない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。排水溝脇で無受け皿給油する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。消火設備は不要である。という判断は適切でない。
ウ：正しい。燃料は火気・漏えい・盗難・環境汚染を考えて所定の方法で保管・給油する。
エ：誤り。漏えい記録を残さない。という扱いは適切でない。
総合解説：危険物・環境の両面で管理する。

問題 0140
機械故障を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．工程優先で故障状態のまま運転する。

イ．安全装置を外して継続使用する。

ウ．異常を交代者へ伝えない。

エ．機械に異音・油漏れ・制御異常等があれば安全に停止して点検・修理する。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。工程優先で故障状態のまま運転する。という扱いは適切でない。
イ：誤り。安全装置を外して継続使用する。という判断は適切でない。
ウ：誤り。異常を交代者へ伝えない。という扱いは適切でない。
エ：正しい。機械に異音・油漏れ・制御異常等があれば安全に停止して点検・修理する。
総合解説：不具合の早期停止は重大災害と二次損傷を防ぐ。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0141
予備機について、最も適切な記述はどれか。

ア．工程上停止影響が大きい機械・排水設備等は故障時の代替手段を検討する。

イ．故障は絶対に起きない前提で計画する。

ウ．予備部品・連絡先は不要である。

エ．排水ポンプ停止時も掘削を継続する。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。工程上停止影響が大きい機械・排水設備等は故障時の代替手段を検討する。

イ：誤り。故障は絶対に起きない前提で計画する。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。予備部品・連絡先は不要である。という判断は適切でない。

エ：誤り。排水ポンプ停止時も掘削を継続する。という扱いは適切でない。

総合解説：ボトルネック設備のBCPを考える。

問題 0142
BIM/CIMについて、最も適切な記述はどれか。

ア．3次元モデルを閲覧用画像として一度作るだけの制度である。

イ．BIM/CIMは調査・設計・施工・維持管理の情報をデジタル化し共有・活用する取組である。

ウ．施工段階では利用できない。

エ．属性情報やデータ連携は目的に含まれない。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。3次元モデルを閲覧用画像として一度作るだけの制度である。という扱いは適切でない。

イ：正しい。BIM/CIMは調査・設計・施工・維持管理の情報をデジタル化し共有・活用する取組である。

ウ：誤り。施工段階では利用できない。という判断は適切でない。

エ：誤り。属性情報やデータ連携は目的に含まれない。という扱いは適切でない。

総合解説：情報連携により建設生産・管理の効率化を図る。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0143
施工前確認のチェック項目『ICT施工』について検討している。現場でICT施工を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．ICT建機だけ導入すればデータ整合は不要である。

イ．3次元データは出来形確認に使えない。

ウ．ICT施工では3次元測量、設計データ、ICT建機、出来形管理等を連携して生産性向上を図る。

エ．現地基準点はICT施工では不要である。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。ICT建機だけ導入すればデータ整合は不要である。という扱いは適切でない。

イ：誤り。3次元データは出来形確認に使えない。という判断は適切でない。

ウ：正しい。ICT施工では3次元測量、設計データ、ICT建機、出来形管理等を連携して生産性向上を図る。

エ：誤り。現地基準点はICT施工では不要である。という扱いは適切でない。

総合解説：データの一貫性と現場検証が重要である。

問題 0144
ICT建機に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．オペレータの安全確認が不要になる。

イ．設計データが誤っていても自動で正しく施工する。

ウ．始業点検は不要になる。

エ．ICT建設機械は3次元設計データ等を利用してマシンガイダンス・マシンコントロール等を行う。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。オペレータの安全確認が不要になる。という扱いは適切でない。

イ：誤り。設計データが誤っていても自動で正しく施工する。という判断は適切でない。

ウ：誤り。始業点検は不要になる。という扱いは適切でない。

エ：正しい。ICT建設機械は3次元設計データ等を利用してマシンガイダンス・マシンコントロール等を行う。

総合解説：自動化してもデータ確認と安全管理は必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0145
3次元測量を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．UAVやレーザスキャナ等による3次元測量は多数点の地形データ取得に有効だが精度・死角・基準点を確認する。

イ．点群は必ず誤差ゼロである。

ウ．植生や水面は計測に影響しない。

エ．座標合わせは不要である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。UAVやレーザスキャナ等による3次元測量は多数点の地形データ取得に有効だが精度・死角・基準点を確認する。
イ：誤り。点群は必ず誤差ゼロである。という扱いは適切でない。
ウ：誤り。植生や水面は計測に影響しない。という判断は適切でない。
エ：誤り。座標合わせは不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：計測方法の特性を理解して品質管理する。

問題 0146
点群データについて、最も適切な記述はどれか。

ア．点群には位置情報が存在しない。

イ．点群データは座標を持つ多数の点から地形・構造物形状を表現できる。

ウ．点密度は用途と無関係である。

エ．異常点除去は不要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。点群には位置情報が存在しない。という扱いは適切でない。
イ：正しい。点群データは座標を持つ多数の点から地形・構造物形状を表現できる。
ウ：誤り。点密度は用途と無関係である。という判断は適切でない。
エ：誤り。異常点除去は不要である。という扱いは適切でない。
総合解説：用途に必要な密度・精度・ノイズ処理を確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0147
現場でデータ共有を確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．全員が無制限に削除できるようにする。

イ．版管理を行わない。

ウ．クラウド等で施工情報を共有する際は最新版管理、アクセス権、バックアップ、情報セキュリティを確保する。

エ．バックアップを取らない。

答え・解説　正答：ウ
ア：誤り。全員が無制限に削除できるようにする。という扱いは適切でない。

イ：誤り。版管理を行わない。という判断は適切でない。

ウ：正しい。クラウド等で施工情報を共有する際は最新版管理、アクセス権、バックアップ、情報セキュリティを確保する。

エ：誤り。バックアップを取らない。という扱いは適切でない。

総合解説：デジタル化では情報管理ルールも必要である。

問題 0148
省人化に関する施工管理上の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．人員削減だけを目的とし安全・品質は無視する。

イ．データ連携は対象外である。

ウ．建設機械の自動化は一切含まれない。

エ．i-Construction 2.0は建設現場のオートメーション化等で省人化・生産性向上を目指している。

答え・解説　正答：エ
ア：誤り。人員削減だけを目的とし安全・品質は無視する。という扱いは適切でない。

イ：誤り。データ連携は対象外である。という判断は適切でない。

ウ：誤り。建設機械の自動化は一切含まれない。という扱いは適切でない。

エ：正しい。i-Construction 2.0は建設現場のオートメーション化等で省人化・生産性向上を目指している。

総合解説：省人化と安全・品質確保を両立する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0149
電子納品を適切に管理するための記述として、正しいものはどれか。

ア．電子成果は所定のフォルダ・ファイル形式・命名・チェック等に従い、検索・再利用可能な状態で納品する。

イ．ファイル名を全て任意にしてよい。

ウ．破損ファイルでも提出できればよい。

エ．ウイルスチェックや内容確認は不要である。

答え・解説　正答：ア
ア：正しい。電子成果は所定のフォルダ・ファイル形式・命名・チェック等に従い、検索・再利用可能な状態で納品する。

イ：誤り。ファイル名を全て任意にしてよい。という扱いは適切でない。

ウ：誤り。破損ファイルでも提出できればよい。という判断は適切でない。

エ：誤り。ウイルスチェックや内容確認は不要である。という扱いは適切でない。

総合解説：電子成果も品質管理対象である。

問題 0150
デジタル出来形について、最も適切な記述はどれか。

ア．ICTなら規格値判定は不要である。

イ．デジタル技術による出来形管理でも、使用機器・計測方法・精度・設計データ整合を確認する。

ウ．点群の座標系を確認しない。

エ．計測機器の校正は不要である。

答え・解説　正答：イ
ア：誤り。ICTなら規格値判定は不要である。という扱いは適切でない。

イ：正しい。デジタル技術による出来形管理でも、使用機器・計測方法・精度・設計データ整合を確認する。

ウ：誤り。点群の座標系を確認しない。という判断は適切でない。

エ：誤り。計測機器の校正は不要である。という扱いは適切でない。

総合解説：デジタル化しても測定の信頼性確保が必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き無断転載・再配布・販売・第三者配布・教材への無断利用は禁止。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/